

第4回城下のまち鶴岡将来構想策定委員会（会議録）

- 日 時 令和3年7月30日（金）10時00分～11時45分
- 会 場 マリカ西館 3階 マリカ市民ホール
- 出席委員 上木 勝司委員長、矢口 哲也委員（オンライン参加）、
高橋 健彦委員代理、上野 隆一委員、丸山 貴光委員、
羽田 俊之委員代理、有地 裕之委員代理、三浦 秀人委員、
伊藤 秀樹委員、佐々木 邦夫委員、阿部 貴一委員、秋野 公子委員
- 欠席委員 佐藤 泰光委員、前田 直之委員、國井 英夫委員、酒井 忠順委員、
大久保 紀子委員
- アドバイザー 東北芸術工科大学 学長 中山 ダイスケ氏
株式会社 umari 代表取締役 古田 秘馬氏
内閣府 クールジャパン地域プロデューサー 陳内 裕樹氏
- 事務局 建設部長、企画部次長（兼）政策企画課長（兼）酒井家庄内入部 400 年記念事業推進室長、商工観光部観光物産課長、教育委員会社会教育課文化財主幹、建設部都市計画課長（兼）城下のまちづくり推進室長、建設部都市計画課主幹、企画部政策企画課政策企画専門員、商工観光部商工課商工専門員、商工観光部観光物産課主事、教育委員会社会教育課主事、建設部都市計画課係長、建設部都市計画課都市計画専門員、建設部都市計画課専門員（都市計画係）3名
- コンサル (株)国際開発コンサルタンツ 3名
(株)山形アドビュロー 2名
- 公開非公開 公開
- 傍聴者 1名
- 次 第
1. 開会
 2. 挨拶
 3. 協議
(1) 駅前地区の整備方針について
(2) 質疑応答・意見交換
 4. その他
 5. 閉会

会議概要

1. 開 会

- ・建設部長による開会宣言
- ・出席の確認

2. 挨拶

… 皆川市長の挨拶 …

3. 協議

議長：委員長

《委員長》

- ・これまで駅前の整備方針について協議を重ねてきた。本日は、これまでの議論を踏まえて事務局がまとめた、「駅前地区整備のグランドデザインとその実現に向けた実行程案」について協議いただき、次回会議でお諮りする予定の駅前地区整備計画の具体案のとりまとめに向けて、その骨格を決定していきたい。

(1) 駅前地区の整備方針について

《事務局》

… 資料についての説明 …

《委員長》

- ・ただ今の事務局の提案については後ほど協議いただくこととし、先ずは関連してプランニングチームから令和の藩校の整備方針について、補足的な説明があるということなのでご説明願う。

＜アドバイザー①＞

- ・駅前の商業施設に多くの市民が行かなくなっている。市民が利用するにはどうしたらいいか、これからデザインしていく。
- ・「令和の藩校」をキーワードに、高校生をターゲットとしていくことは第3回の会議でもお伝えした。鶴岡には庄内藩校致道館がある。その教えを現代に置き換えた。市民が自分のために集う、自分の知恵を何かと交換し合える、集まることで考えるというのは、コンセプトとして良い。「令和の藩校」は、もっとも鶴岡らしい。
- ・市民の経験を基に、子どもたちと高齢者が交流する。こういったイベントはあるが、そういう場所はない。市民が「まず、寄ってみる」というのは観光的にも商業的にも良く、健康にも良い影響があると思う。今まで行政が担ってきたサービスを皆で一緒に考えることができたなら、前例のない取り組みになる。
- ・色々な世代が集える学校は、まさに生涯学習の理想といえる。運営を持続させるために、どういう観点で運営するか、新しい運営方法に着目していく。

<アドバイザー②>

- ・SDGs は、世界的に推進している未来志向の考え方である。「令和の藩校」を考えたときにはこの持続可能な考え方を導入すると良いのではないかと。鶴岡市は内閣官房から「SDGs 未来都市」に 選定されているが、今回の「令和の藩校」にこの SDGs の考え方を組み込んでいくと良いのではないかと。
- ・市民の税金のみで駅前整備や運営を行う必要はない。世界の方が一緒に学べるようにして、世界中の方から支援をもらえる仕組みを作ることも持続可能な企画となるのではないかと。
- ・企業版ふるさと納税の仕組みを活用することも外部資源を活用する一つの方法かもしれない。人材育成に力を入れる自治体が複数の企業から協賛を募る例もある。
- ・一例として「日本の食文化、精神文化といえば鶴岡」と世界に発信するための支援をしようという企画が考えられる。

<アドバイザー③>

- ・パーク PFI とは民間が行政に代わって公園の管理運営を行うことである。指定管理料をもらい公園管理を行うことに加え、営業行為を行っても良い。
- ・父母ヶ浜は、指定管理費がないかわりに管理者側が営業権を持つ。地域商社 3 社がコンソーシアムを組んで運営し、ハード整備の時点から市民が参加している。来客数が年間 1 万人だったものが、昨年は 45 万人が来場した。
- ・運営が 1 社ではなく、地元のプレイヤー、外のスペシャリスト、地域商社が組んで運営スキームをしっかりと作ることが大事である。行政が先にスキームを作って運営者を募集する場合は、ほとんどうまくいっていない。

(2) 質疑応答・意見交換

《委員長》

- ・プランニングチームには、運営体制やその経費等を含めて、かなり詰めていただいた。皆さんからご意見、ご質問があればお受けしたい。

… 意見・質問等なし …

《委員長》

- ・特に無いようですので、事務局提案についての協議に入りたい。
- ・なお、4 ページのランドデザインについて、駅前地区全体をもって「令和の藩校」というのはかなり無理がある。プランニングチームの提案を受けて、「令和の藩校」を駅前整備の主要な目玉として「学び・活動エリア」に位置づけた上で、駅前地区の全体的なプランをイメージすると良いのではないかと。

《委員①》

- ・「令和の藩校」をテーマに高校生を誘導し、短期・中期・長期と位置付けて、将来構想に結び付けたいと拝察している。
- ・この点、藩校といえば市役所前の致道館のイメージがあるため、中心市街地の大きなテーマであるようにも思う。
- ・これらが連動して駅前の活性化に繋がるということかもしれないが、実際に図面上で利用可能な施設という意味では、マリカの東館 1 階には実際に高校生が駅の待合室

として活用している場所がある。そのスペースから、2階のC区画を「令和の藩校」として置くというのが、ここだけで「令和の藩校」という教育的なスペースとすることを、市はどう考えているのか。短期的には良いと思うが、中長期的に見て、高校生を中心とした「令和の藩校」を目指すという視点だけでよろしいのか。

- ・鶴岡の駅前には、出羽三山（特に羽黒山）の玄関口であった。駅前には、食・観光・歴史文化という3つのテーマがあり、それが出羽三山詣でに繋がっている。駅前には、各地を回りながら、観光・歴史散策するというテーマがあるはずである。その機能を考えずに部分的に捉えていいのだろうか。商店街や、長く住んでいる方々は今の視点だけで納得できるだろうか。
- ・鶴岡市で東館の運営を行っている。どうやって市全体に波及していくかという責任の下に、確固たるアドバイスをもって、模索している。我々も苦勞しなければならない点だと思う。しかし、東館のスペースをそういう風に部分的に位置付けるのは違うと思う。例えば、ジャスコ跡地をイベント的にでも活用してはどうか。
- ・駅前商店街では、雪まつりの際にジャスコ跡地に公園をつくったりして努力しているが、一過性のもので、イベントが終われば更地となる。ジャスコ跡地を明るくして、そこにステージなどを作って、イベントを仕掛けていくと活性化できる。ジャスコ跡地は大きな視点で見てほしい。「令和の藩校」が悪いと言っているわけではない。投資に対する効果があり、賑わい、歴史文化、観光、食につながるものであれば、思い切っている。前回言った通り、図書館を作るといったような経済効果の図れる投資、かつ文化・教育が合わさりたくさん高校生が駅前に集まってくることであれば受け入れたい。

《委員長》

- ・駅前地区全体を「令和の藩校」とするならば、「駅・ターミナル」エリアには、どういう機能が必要か。「にぎわい・発信エリア」には、どう関連させていくのか。そういう議論も必要になる。そういう意味では、「学び・活動エリア」に「令和の藩校」と位置づけ、イメージを明確にした方がよい。

＜アドバイザー①＞

- ・仰ることはよく分かる。しかし、食、観光業、精神文化に海も山も歴史もあるが、全部を入れようとしても、全部を入れきれない。食文化の都市を打ち出してみたが、人が来ない。観光拠点だと思っていた駅前は、ターミナルとして機能していない。歴史は町の中に点在している。その全部を持ってくることは出来ないのだから、全部を結ぶコンテンツは何かということから「学び」になり、先ほどの経緯に至る。もちろん行政側は「にぎわい・発信」や「憩い・交流」のエリアなどのテーマ付けをしてくれているが、私達としては鶴岡駅前を全国に発信されるシーンを想像している。ニュースソースとして、人口減少・高齢化の進行、中心市街地の過疎化してしまった鶴岡市が駅前を学校にしてしまったというほうがニュースバリューとして強い。駅前全部が藩校ですという訳ではなく、ここは学びのエリアですということで、「令和の藩校」で駅前全体を学びのエリアとして、新しい商品やきっかけを生み出す。今、否定される意見もあったが、どう使うかは皆さん次第である。私達は思い切ったプランを出す。ステークホルダーの皆さんが自分の側から見えてくる意見も、我々「外」の目線で見ると見逃しているところがあると思ひ、こういったものにした。多分、みんなで話し合うと普通の駅前になってしまう。図書館ということも考えられるが、それ以外でも

市には国際交流とか講座・サークル等を行う施設があるので、駅前にオフィスを共にすることで、今以上色々な世代が入ってこれるチャンスを作れると思う。

《事務局》

- ・事務局も同じような考えで動いている。行政としてもまちづくりの方針の中で、色々と議論してきた。その議論の中で、「令和の藩校」という位置づけを持ち、ここを発信の場として、活性化していこうと動いている。また、短期・中期・長期という考え方を持ったのも、この計画を計画のままで終わらせず、実際に社会実験をして、さらに確実な事業としたいからである。短期的に色々な検証を行っていききたい。その上で、マリカ広場、ジャスコ跡地を短期から中期にかけての15年間、使わせていただきたい。それ以降も検証を持って次の事業を展開していききたい。ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

《委員②》

- ・藩校は、鶴岡の志を持った人をつくることに繋がる。戦略を練り、15年間の会議室をつくるというイメージを持った。人を集めることについては、人口減少のなか、人を奪い合うことに労力をかけても無駄だと思う。それよりも、人が来たくなる場所にすればいいと思っている。学校には知識と世界からお金が集まる場所にしてほしい。
- ・長く続けていくためには、志のある人が中心にならなくてはいけない。そこが1番の問題だが、毎年新しい高校生が出てくるので、彼らを中心とすることで可能になるのではないかと。運営方法や持続性についてもプランニングチームが2つの大きなアイデアを出してくれている。まず15年間これを会議室かつ実験室として、試すことが非常に良いと思う。
- ・将来的には、企業からお金を集める方法を考えないと持続できないので、そこを学校で作っていく。人を集めるのではなく、人をつくっていくことがイメージできる提案であった。
- ・例えば、高校生は自分達が小中学生の頃にどのようなプログラムが欲しかったかを考えて、小中学校がここへ学びに来ることも具体的には考えられるのではないかと。
- ・開発について意見があったが、鶴岡駅前に住む者としては駅前の道路が詰まっていることが気になる。基幹道路を作るなり、市民の生活道路を確保するなり、全体をデザインしてほしい。どうせやるなら一体的に考えて、世界的な会議場を用意するような想定を持ち、何万人も来た場合に人がどう動き、どう駐車場を確保するのかということも考える必要があるだろう。しかし、そういった人集めよりも、人をつくることを考えたい。

《委員③》

- ・整備方針の①、③に関して2点お話がある。
- ・JR駅周辺に「学び・活動エリア」となるものは具体的に何もないと認識している。酒田駅前には図書館はあるが、あくまでも図書館であり、実際に何を学ぶかはそれぞれに任されている。是非、マリカに作る「学び・活動エリア」は、高校生に対して何が学べるか、どういった情報を得ることができるかを具体的に決めてほしい。
- ・整備方針③の「公共・歩行空間の確保、バリアフリー化による駅前地区全体の回遊性の向上を図る」については、昨年、鶴岡市内の高校生が人気ユーチューバーの障がい者の方と駅前や市内を回り、色々な実体験を交えて学ぶことが出来たという話を記憶

している。是非そういった話も含めて、利用に関して地元の高校生がどんなことを望んでいるか、市民が思っていることを意識しながら整備方針の中に組み込んでほしい。

《委員④》

- ・私も駅前には色々な意味で玄関口だと思う。以前、駅前に高校生が勉強する場所があるという話があったが、今日の資料の4ページを見て、駅前は鶴岡の持つ資源に繋がる玄関口になるとともに鶴岡市内の玄関口である必要があるのでは、駅前で完結せず4ページでそれぞれを繋ぐ仕組みが必要だと思った。
- ・鶴岡の致道館の精神はずっと受け継がれるものであり、鶴岡の歴史として心の中にずっとあると思っている。鶴岡には平成9年から老若男女が学べる致道大学というものがあり、今も続いている。途中で高校生がすごく出席してくれた時代があった。会場を国際村、中央公民館、TTCK、致道館等、学べる場所で開催してきた。4ページの「学び・活動エリア」の中に、致道館と「令和の藩校」は別々でなくて良いと思うので、関係性があって、駅前だけで終わりではなく、繋いでいくのがいいのではないかと。

＜アドバイザー③＞

- ・全体の流れの中に学びがある。例えば、食文化を学ぶことができる世界がある。高校生が地域のことを学べるようにする。
- ・軽井沢に風越学園という学校があり、楽天の創業メンバーが作った。1校できただけで300世帯が東京などから移住している。
- ・駅前だけですべての課題を解決することは出来ない。「令和の藩校」が世の中の流れのなかで、将来を見越す。いずれ、何がしたいのか、何が出来るのかというブランドを上げなければいけない。このエリアに向けてどういうことが出来るのかを考えていきたい。

《事務局》

- ・藩校の意義を提案しているが、皆さんで何かコンセプトがあればご助言いただきたい。

《委員長》

- ・藩校そのものについて、異論は出ていない。「令和の藩校」は今回の将来構想の目玉として明確に位置付けられ、歴史・時代を映す1つの象徴として駅前地区に設置することについては、反対は無い。
- ・将来構想の目玉として「令和の藩校」を作り、地域づくりに大いに貢献してもらおう。ここまでは出来ている。しかし、駅前地区全体のグランドデザインをもって「令和の藩校」とするのであれば広げ過ぎであり、なお議論すべきではないかと。

《委員⑤》

- ・今日で4回目、私も3回目だが、なかなか概要がよく分からない。高校生の学びの場をつくることは悪いことではないと思う。その反面、委員がおっしゃるように、地域の抱える課題はそれだけではない。観光にせよ、食文化にせよ、マリカでは取り組んでいるのに、未だに成功が見えない。成功するには教育に特化する必要があるが、それでいいのかとは思っている。皆さんの話を伺っていると、どうも考え方が統一しているとは思えない。無理に進める必要があるのだろうか。もう少し議論をしっかりと行い、皆さんが納得するまで組織の議論を煮詰める必要があるのではないかと。5年間の社会

実験で何をやるのかさっぱり分からないため、それに伴う予算的措置も分からない。未定の部分が多いため、しっかりと協議を行って、導き出したい。

《委員長》

- ・事務局の提案に全面的に反対だという意見は無い。ただ、駅前地区全体構想における「令和の藩校」の位置付けについては明確にする必要がある。議長として、あえて申し上げたい。

《委員⑥》

- ・今日の議論の整理をしたいと思う。
- ・今日の話は、空間的なスケールのアップダウンの話だと思う。マリカの敷地の話、駅前の地域の話、市全体による駅前及びマリカの位置づけの話があった。全部大事な話であり、アップダウンをするのはすごく大事なことである。プランニングチームの皆さんの提案は、初動となるマリカの再利用（リノベーション）に関する提案が中心で、それに加えてジャスコ跡地の利活用である。
- ・もう1つは時間のスケール、短期的スケールと長期的な話である。ジャスコ跡地のPFI活用は比較的短い期間で出来る話だが、もっと長期になってくると、もっと広い範囲の人に訴えるようなビジョンも必要になってくる。長期に書くときに、どんな鶴岡市になってほしいのかというビジョンが「令和の藩校」としての駅前であり、その中に観光というコンテンツもあるのではないかと考えている。
- ・今日は空間のアップダウンもあり、短い時間軸、長い時間軸の話もあったので、各案を決める前に、どういう内容が今日の議題の中心であったかを整理した方がいいかもしれない。
- ・資料の4ページに注目が集まったが、もう少し広い範囲を考えた方がいい。今日、委員から意見が出てきたと思うので、そこはちゃんとした方がいい。
- ・私自身はプランニングチームの提案はすごく良いと思う。教鞭をとっている大学でも、求められる空間は4・5人が集まって議論する場や、中ぐらいの人数で一緒に作業する場が変わってきている。その辺りは「徂徠学」の「会業の重視」というコンセプトにも繋がる。実際に学びの場でこれだと思うものをどう見るのか。次回の会議で出てくると、抽象的な話から具体的な話が変わってくるので良いのではないかと。
- ・先ほどFOODEVERの話もあり、個人的にマリカは何故上手くいかないのかを考えていた。やはり外部の人間にとっては、中で行われていることが全く見えてこないことが原因であり、おそらく、ここが学びの場になるとしても、学んでいる姿が見えてこないことは、今後、問題になってくると思う。これは後々、解決しなければならないが、多目的にマリカに学びの場が作られるときに、外に溢れ出すような仕組みづくりを考えていくと、駅前地区に広がる。短期から中期に繋がると思う。

《委員⑦》

- ・皆様のご意見を聞いて、学びという言葉に対して抱くイメージが共有しきれていないと感じる。特に高校生の学びといえ、教室等で用意されたカリキュラムに沿って勉強するというイメージがある。しかし、ここでやろうとしていることは、自らで勉強することもありだと思うが、定まっていはいない。この地域の課題を自分事として捉え、解決していくというプロセスも学びとして掲げられている。特に4ページの「学び・活動エリア」にも、「市民の起業・創業支援」など、中期の枠組みで捉えた

方がいいものもある。

- ・滋賀県東近江市で SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）というまちの人から出資を募り、地域課題を解決する仕組みを実践しているところがある。「こういうことをやりたいので、出資してください」とプレゼンし、成果指標も設定する。賛同者は一口 2 万円で出資する。募集金額はだいたい 50 万と決められていて、プレゼンした人は集めたお金で課題解決に向けて活動する。この事業のすごいところは、結局は市で賄っていることにはなっているが、まちの人が出資することによって、出資した人も自分事になり、うまく行くように応援するようになる。結果として活動に広がりを持たせることが出来るそうだ。参考になればと思いご紹介した。

《委員長》

- ・予定の時間を過ぎていたため、最後にお一人だけ、ご意見があればどうぞ。

《委員①》

- ・プランニングチームは、とても長期的かつ深く、色々な市の事業計画の具体的なものを掴まれている。その上で、駅前をどうしていくべきかを短期的にお示しいただいた。本当は私と同じく全部壊して、ゼロから始めたいというくらいの想いがあると思うが、現状を事実として受け止め、妥協していくことで頑張ろうと言っている。多分我々よりも、とても深く長期的な観点で藩校というテーマを導き出したと思う。それには、市の中心部に大学院があったり、城下町であったり、そういう観点を総合的に考えていただいたことであると思う。ただ、長期的にも、中期的にも、短期的にも、駅前を「令和の藩校」と打ち出した場合、例えば駅前商店街がどう捉えるか。それは中心部の博物館や城跡や文化施設があるところを中心として、藩校致道館を押ししていくという流れから、駅前に一部それを担ってもらいたいというのは分かるが、多分理解出来ないと思う。「令和の藩校」というテーマで駅前の整備方針が決まったとマスコミに出た途端に「委員は何を言っているんだ」と言い返す人達が出てきて、誤解される可能性が非常に高いと思う。リーズナブルに鶴岡駅前、城下町と表現すると、やっぱり食文化、観光、歴史文化というテーマが出てくる。その観点から、どう短期的な整備方針を定めるか。教育というテーマを上げて、一部を駅前から出発するとして、藩校というテーマで、少しそういう整備方針を切り口とさせていただきたいというのであれば、理解できるだろう。この辺を整理していただいた方がいい。鶴岡の未来の方向性、まちづくりの個性にきっかけをつくらうとしている。しかしながら商業者、地域の方々にうまく伝わるように、もう一度整理していただきたい。

《委員長》

- ・プランニングチームの案についてはかなり詰めた形で確認できた。
- ・事務局の提案については、駅前地区全体のグランドデザインにおける「令和の藩校」の位置付けについて議論が集中し、私も問題提起したが、グランドデザインの全体像（構成）と実施行程に関しては、反対意見は無かった。従って、次回の委員会に向けて、基本的に事務局提案を本日の議論を参考に色々揉むことで、具体的な計画素案を整理できるのではないかと考えている。
- ・当然、プランニングチームのご提案も全体計画の中に具体的に位置付けることになる。

<アドバイザー①>

- ・今日の審議で見直しをするとすれば、素案を説明するにはどんなものがあるかということになる。議会などにと考えていたが、とにかく駅前全体を「令和の藩校」というと色々のご意見があるので、そこは「学びのまち」など、見方を変えてみんなの駅前としていく。
- ・今日、意見が食い違ったところを、皆さんの意見を取り入れたものにする。
- ・プランニングチームのポジションとしては、「駅前がまちの中心ではない」というところから始まっている。皆さんは「駅前が都市の中心である」という思いがあり、食い違いが生じている。
- ・商店街の皆さんにもきちんとお話すれば、ご理解いただけると思う。

《委員長》

- ・本日は、事務局の提案について基本的なところのご意見をいただいた。プランニングチームには、素案としてかなり具体的なイメージを示していただいた。駅前地区全体についてはまだそこまで具体的にないが、プランニングチームにはさらに詰めていっていただくとありがたい。
- ・それでは、今日の議論を参考に、事務局提案を基にして素案を取りまとめ、次回委員会で提案していただくが、よろしいか。

… 意見・質問等なし …

《委員長》

- ・どうもありがとうございました。

《建設部長》

- ・今回、駅前の中心、整備開発、時間軸など、そういったところを引き続きまとめさせていただいた。その上でプランニングチームから、具体的にこういうところを意識して、それが高校生への施策やひいては地域の成果に繋がっていくのではないかといいところまでご説明できればと思っていた。
- ・ご指摘いただいた点については、駅前で解決しようと思っていない。
- ・鶴岡市は様々な資産、人材を持っている。それをもっともらしい教育によって、より確実にできるのではないかと。
- ・社会実験をしながら、より具体的なものを据えていく。次の委員会でより具体的に訴えていきたい。

《委員長》

- ・最後にアドバイザーと市長からコメントを一言いただきたい。

<アドバイザー①>

- ・色々のご意見があるが、全部を入れると普通になってしまう。人を育てることは大仕事である。少し偏ったところがあるかと思うが、先ほど、建設部長も人を育てていくことに尽きるということで、そこに特化した意見を反映させていただきたい。

《市長》

- ・真摯なご議論、ありがとうございました。色々な委員会に参加しているが、どの委員会よりも取り上げているテーマが非常に複雑かつ具体的な建物に関わる議論が入っていて、なかなか難しいと感じた。
- ・今日は、委員長の取りまとめで議論を前に進めていただいた。
- ・「令和の藩校」は、建設部長の話にもあったように、決して駅前地区だけを「令和の藩校」と位置付けて何かしようというわけでは無い。それは無理があると思うし、委員からもお話があったように、鶴岡市の全域に学びの場、「令和の藩校」の様子がある。そういったところとの結びつき、また多世代の結びつきも視野に入れて考えていきたい。そういう視点で次回も提案をしっかりと議論していただきたい。
- ・委員から全体の整理をしていただいたが、皆さんの描いているエリアのスケールは、マリカ、駅前、市全体と、個人で差がある。議論が難しいが、時間軸を論点としている。
- ・今回は短期・中期・長期の考え方が示されているが、これもひとつの審議の成果であると思う。今まで、マリカ東館・西館をいつまで残すかという議論がなかなか出来なかった。老朽化しているので、更地にして公園にしてはどうかという考えもあるが、東館はもう少し使い道がある。西館も管理組合を持っていて、市や高齢者の方が使っている。それぞれ投資するところが違う問題もある。西館をこの先どうするかは管理組合で議論して、個別の議論を拝見していく必要がある。その中で市全体の話、駅前の話と繋がってくるが、鶴岡市で今後必要な公共施設、マンション、専門学校、図書館、給食センターなどは老朽化して、どこに配置するかを議論の必要があるものがたくさんある。全て決着させることは難しいが、我々はそういうことも念頭に置きながらマリカを再利用する場合は、市全体の「令和の藩校」としての接続を考え、必要な機能を入れ込みたい。
- ・観光、商業との新しい連携を念頭に置き、高校生主体のまちづくりを打ち出せると、インパクトが出せる。ご議論いただきたい。

《委員長》

- ・以上で終了させていただく。

進行：事務局へ

4. その他

《事務局》

- ・長時間ありがとうございました。事務局で再度検討させていただく。本来は第5回に向けて構想の素案を提示することになるが、本日の議論を踏まえて、皆さんに事前に計画素案を送付してご確認をいただき、その内容を精査しながら次回の会議を開催させていただきたい。その折には、よろしくお願い申し上げます。

5. 閉会

- ・建設部長による閉会宣言